

PANews

Vol. 22, No. 1, Feb. 2012

もくじ

▽大会報告	1
▽若手の会レポート	2
▽大会のお知らせ	2
▽奨励発表会報告	3
▽国際会議レポート	3
▽研究満喫	5
▽ from Editors	5

【大会報告】

第 65 回大会(大阪)開催報告

大会長 小谷賢太郎

関西大学システム工学部

2011年11月26日(土)、11月27日(日)の両日に、関西大学において日本生理人類学会第65回大会を開きました。一般口演27題、ポスター27題の発表が行われ、142名の参加をいただきました。また、多くの企業から、展示や広告で賛助をいただきました。ここにあらためてお礼を申し上げます。

大会初日には日本に脳磁計を導入した先駆者で

ある藍野大学の外池先生による特別講演「マルチモーダル五感機能計測の現状と展望」が行われました。また、初の試みである日本生理人類学会一人類働態学会合同シンポジウムとして「高齢者の運動機能と日常生活」を行いました。両学会独自の視点が4人の講演者の発表からもうかがわれ、興味深いシンポジウムになりました。今後このような企画を継続していければと思っております。

懇親会では前回大会の発表奨励賞の授賞式が行われ、また第66回、第67回大会の紹介がありました。次回の大会は草野大会長のもと長崎大学医学部良順会館にて5月12日、13日に開かれる予定です。



写真①：口頭発表会場； 写真②：左上：特別講演1 外池教授（藍野大学）
 写真③：日本生理人類学会一人類働態学会合同シンポジウム
 写真④：特別講演2 Cynthia Beall 教授(Case Western Reserve University)； 写真⑤：ポスター発表の様子

大会二日目には Cynthia Beall 教授 (Case Western Reserve University) に "Genes and high-altitude adaptation" という題目で高地における人類学のトピックをご講演いただきました。

大会の運営にあたっては本学関西大学のスタッフ4名と研究室の学生とで対応させていただきました。不手際などもあったかと存じますが、どうぞお許しただければと存じます。大会長と言う大役を仰せつかり、当日まで不安でなりませんでしたが、なんとか無事に大会を終えることができました。皆様に厚くお礼申しあげる次第です。

【若手の会レポート】

第18回若手の会

高橋隆宜 (大阪市立大学)



第65回大会にあわせて2011年11月25日に開催された若手の会では、Cynthia M Beall 先生に来ていただき、「50 years of physiological anthropology at high altitude」という題でご講演いただきました。フィールドワークから始まった高地研究が、集団間の比較研究、現在の遺伝子レベル研究までどのように発展してきたかを説明していただきました。質疑応答でも活発な議論が交わされ、今後の生理人類学の方向性と可能性を示唆して下さったように思います。

また、今回は日本の若手研究者として立命館大学大学院の森嶋琢真さんと九州大学の若林 斉さんにご講演いただきました。森嶋先生には低酸素環境での運動が身体に与える効果について発表いただき、低酸素状況における運動が一般化されることで、生活習慣病の予防に効果を挙げたいという研究の将来性を示していただきました。若林 斉さんには熱帯地域人と日本人の出生地の違いに

よる体温調節機能の差異について発表いただき、各集団の発汗機能、体液循環機能の特徴について生理人類学的知見を示していただきました。

今回の参加者は37名と盛大なものとなりました。関西大学の学生のみなさんは大会準備でお忙しい中、多数ご参加いただき、地方からも多くの若手研究者が集まってくださいました。若手の会は今後も若手研究者の意見交換、交流、教育の場として準備していこうと思います。諸先生方にはご指導、ご鞭撻を賜り、更なる研究者の育成にご協力いただきたく思います。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

次回の開催は第66回長崎大会の前日に当たります平成24年5月11日(金)を予定しております。

【大会のお知らせ】

第66回大会(長崎)のご案内

大会長 草野洋介

長崎ウエスレヤン大学

第66回大会を担当することになりました長崎ウエスレヤン大学の草野洋介です。長崎での開催は、過去に故・中村 正長崎大学医学部衛生学講座教授、恩師である竹本泰一郎長崎大学医学部公衆衛生学教授、同じく青柳 潔長崎大学医学部公衆衛生学教授が担当されたことに続き4回目になり、大変光栄に思っています。

5月の長崎は気候がよく、多くの学会員の皆さまに参加いただければ幸いです。長崎でお待ちしています。

□■□ 大会概要 □■□

■会期：2012年5月12日(土)～13日(日)

■会場：長崎大学医学部良順会館

■シンポジウム：「私が考える生理的多型性(仮題)」

■記念講演：竹本泰一郎(長崎大学医学部名誉教授、日本生理人類学会名誉会員)

■懇親会：水辺の森公園レストラン

■会費

□大会参加費

・4月13日(金)以前

正会員 7,000 円, 非会員 10,000 円

学生(正会員/学生会員) 3,000 円, 学生(非会員) 4,000 円

・4月14日(土)以降

正会員 8,000 円, 非会員 10,000 円

学生(正会員/学生会員) 4,000 円, 学生(非会員) 5,000 円

□懇親会費

正会員 3,000 円, 非会員 4,000 円

学生(正会員/学生会員/非会員) 1,000 円

■一般演題発表申込締切: 2012年3月16日(金)

■要旨集原稿提出締切: 2012年4月13日(金)

※詳細な大会情報が学会ホームページに随時掲載されますので、ご確認をお願いします。

【奨励発表会報告】

平成23年度 研究奨励発表会(関東地区)

開催報告

石橋圭太(千葉大学)



昨年12月17日に東京田町にて年末恒例となりました、研究奨励発表会が行われました。福岡での開催も含めて通算で第7回を数えるようになりました。これまで関東地区でおこなわれてきた、第1回(平成19年)、第2回(平成20年)、第3回(平成21年)、および第5回(平成22年)は、すべて芝浦工業大学の工藤 奨先生がお世話役をされてこられました。例年、発表申し込み締め切りが開催日の2週間前という、主催者にとってはとてもタイトなスケジュールでしたが、これまで工藤先生がしっかりしたルールを敷いてくださったおかげで、演題数も33を数える盛会となりました。研究奨励発表会は、大学生、大学院生の萌芽的な研究に対して発表の機会を与える、若手の登竜門としての位置づけでございますが、全国大会でも

拝聴したいレベルの高い発表も多数ございました。発表者も関東圏以外からも、長崎、京都、新潟と全国各地からご参加いただきました。そのうち、便利になった羽田空港経由で海外からの参加者もあるのではないかと期待しております。今年も同じ時期に開催される予定です。たくさんの演題をお待ちしております。

さて、優秀発表賞は、厳正な審査の結果、次の4演題の発表者に授与されました(順不同)。

- ・日帰り型森林セラピーがもたらす生理的変化、発表者: 池井晴美(千葉大学環境健康フィールド科学センター)
- ・肝細胞機能向上とNO濃度の関連性、発表者: 隅井干城(芝浦工業大学大学院機能制御システム専攻)
- ・青年期女性における多チャンネルテレメータシステムを用いた咀嚼筋筋電位計測による咀嚼挙動に関する一検討、発表者: 三浦仁実(長崎県立大学大学院人間健康科学研究科)
- ・振動による触覚刺激が音判断に及ぼす影響、発表者: 鈴木智裕(千葉大学大学院工学研究科)

受賞を逃した方の演題にもレベルの高い発表は多数ございました。今年の発表会も楽しみでございます。当日の様子の写真は実践女子大学の山崎和彦先生にいただきました。ありがとうございました。

【国際会議レポート】

北京科技大学との

ジョイントデザインワークショップ

安河内 朗(九州大学)

2010年10月、ある縁があつて、北京科技大学と北京航空航天大学のそれぞれで、PA デザインの授業をする機会を得た。特に北京科技大学では、デザイナーを目指す多くの学生さんたちが参集してくれて講義にも自然と力がこもった。当大学では10年前に工業設計学科が誕生し、22名の若い教育スタッフで運営されている。ここでは科学技術とアートを融合するデザインを目指すこととされ、九州大学の芸術工学の理念に近い考え方をもっていることに非常に親近感を持った。しかしながら、



ワークショップの様子

当大学に限らずデザイン教育で有名な精華大学においても、生理人類学や人間工学という人間の特徴やその諸要素をデザインに反映させる独立した研究教育分野のないことに驚いた。しかし、一方でそこに私たちとの交流のチャンスを見いだすことができた。このような背景があって日本生理人類学会が何かしらの貢献ができないものかと、今回のデザインワークショップへ話が展開されるに至った。

今回のワークショップの目的は、まずは日中のデザイン教育や実務分野の関係者との親睦をはかり、その上で私たちの PA デザインの考え方を紹介することで有意義な意見交換を交わすことにある。ワークショップは 12 月 20 日に北京科技大学国際事務局多目的ホールで開催され、以下のような演題と発表者で進行した。

日本側から 6 名

PA デザインの考え方(九州大学：安河内 朗)

PA デザイン賞の実践(関西大学：小谷賢太郎先生)

高齢者動作能力を考慮した製品設計(静岡県工業技術研究所：易強先生)

千葉大学における PA デザイン(千葉大学：勝浦哲夫先生・李スミン先生・下村義弘先生)

自動車操作機器の PA デザイン(豊田中央研究所：向江秀之先生)

森林浴の PA デザイン(千葉大学：宮崎良文先生)

中国側から 6 名

Ergonomics Office Chair Research and Development. (精華大学：Prof. Shi Zhenyu)

Human-centered Approaches in Medical Equipment



ウェルカムパーティにて

Design. (北京科技大学：Dr. Li Yimang)

Every-day Monitoring System for Patients with Elevated Blood Pressure Based on Physiological Information. (北京大学：Prof. Li Weiping)

Studing on the Using Patterns of Chinese SNS Platforms. (精華大学：Dr. Wu Jiayu)

Recreational Vehicle Design Research. (北京科技大学：Dr. Wang Xiaolong)

E-bank User Research. (China Commercial Bank : Dr. Liu Hui)

発表は日本語－中国語の双方の逐語通訳で行われた。日本側からは労働安全衛生総合研究所の劉先生に通訳をお願いしたが、先生の判断で適宜丁寧な注釈をいれて頂いたお陰で有意義な意見交換ができた。また夜に開催されたすばらしい北京料理のバンケットでは、50°を越える白酒(ばいちゅう)や紹興酒で熱のこもった情報交換が行われた。翌日はツアーで天壇(Temple of Heaven)と故宮をまわり、最後は各国著名人が訪れるという Laoshe Teahouse で中国茶を飲みながら数々の伝統芸能を堪能した。日本生理人類学会では、いつもこのような快適な雰囲気の中で様々な面白いアイデアが交換されるが、その中で次回の行事も決まった。

今回は、2012 年 9 月 3-4 日に北京の首都医科大学で開催される Inter-Congress ICPA2012 で PA デザインに関するセッションを設け、ここで討論することになった。会議の全体テーマは"Adapting to Life in Asian Mega-Cities"が予定されており、当大学の Wei Wang 先生が主宰されることになっている。

【研究満喫】

日周指向性の規定要因と

睡眠・精神健康度への影響に関する研究

北村真吾(独)国立精神・神経医療研究センター)

2011年9月、九州大学大学院芸術工学府において博士(芸術工学)を取得しました。本学位論文では、日周指向性、いわゆる朝型夜型の個人差を規定する要因の探索と、日周指向性によって影響を受けることが知られる睡眠、気分調節との関連について検討し、加齢による朝型化や睡眠パターンに対する強固な影響、夜型指向性と抑うつ状態との独立した関連について明らかにしました。この学位論文の作成は、すべて現在の所属先で行った仕事です。もともと博士後期課程に在籍しながら学位論文をまとめることができなかつた自分が社会人という立場で学位を取得できたことは多くの幸運に導かれたというのが正直な気持ちです。何より重要だったのは周囲の方の理解と支援で、主査と副査をお引き受け頂いた九州大学の安河内 朗教授、綿貫茂喜教授、樋口重和教授、データの使用を認めて頂き、構成論文作成の指導を頂いた精神生理研究部の三島和夫部長、肥田昌子室長をはじめとした皆様の暖かいご指導・ご鞭撻、叱咤激励がなければ決して完成することはできませんでした。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

実のところ、この学位論文で取り上げたテーマは課程時代に行なっていたストレス評価法の開発研究とはほとんどつながりがありません。ただ、個人の特性と環境との相互関係を対象とし、ヒトが生きる上でよりよい環境を創り上げるという志向を保持しつつ、与えられた課題の中で自分にできることを考えて臨みました。今思えば、具体的なアウトプットの方向づけを求められやすい職業研究者として、大局的な視点を持ちながら研究テーマの発展性を常に考え柔軟に展開していくためのよいトレーニングだったと感じています。

現代社会は睡眠の短時間化が進行し、24時間化が蔓延し、我々の生命活動に必要な不可欠な睡眠とそれを支える生体リズムは脅かされ続けていま

す。睡眠や生体リズムの攪乱によるうつや生活習慣病、生活の質の低下といった解決すべき問題は未だ山積しています。睡眠・生体リズムという世界の中で、しなやかに時代の要請に応えていけたらと思います。

自分のように学位取得までに大きな回り道をする方は稀かと思いますが、この文章が何かの参考になれば幸いです。

from Editors

次号 No.2 の原稿締切は 2012 年 5 月 1 日です

▽既にお気づきの方も多かろうとは存じますが、PANews では「在外満喫」「研究満喫」という新コーナーを設けております。在外派遣や海外留学、学位取得などに焦点を当てていきたいと思えます。これまでに青木朋子先生(熊本県立大学)や恒次祐子先生(森林総合研究所)にご執筆頂き、今号では北村真吾先生(国立精神・神経医療研究センター)に学位取得についてご執筆頂きました。誠にありがとうございました。これから執筆依頼を受ける先生方におかれましても何卒よろしくお願い申し上げます。

▽前号のこの欄において、2012年から英文誌の冊子版が廃止されることに伴い、PANewsは単体で年6回会員のみなさまに発送される旨、お伝えしました。ところが、送料が従前に比べてかなり割高になることが判明し、第4回理事会において、和文誌といっしょに年4回発送することとされました。今後のPANewsの発行月は2月、5月、8月、11月となります。発行回数は減りますが、内容をより充実させて参りますので、引き続きご贖員のほど、よろしくお願い申し上げます。

▽PANews 編集事務局

安陪大治郎 九州産業大学 健康・スポーツ科学センター
仲村 匡司 京都大学大学院 農学研究科
メールアドレス panews@jspa.net

※原稿、お問い合わせなどはこのメールアドレス宛にお送りください。